

議案の継続に賛成しながら
関連する補正予算
には賛成？
継続理由の敬老金条例
にも賛成？

80歳以上 8300人に 3000円
事業予算約 2500万円(30年度)

100歳以上 50人に 1万円
事業予算約 50万円

山岡光広議員の反対討論（要旨）

もともと敬老祝い金は、甲賀市誕生当初5000円が、平成24年から、現行の3000円となったものです。

予算では、約2300万円から約50万円へと大幅に削減されます。削減の理由として、「高齢化の中、高齢者福祉の増進を図るうえでの生きがいづくり、健康づくり、さらには移動支援など多岐にわたる事業の必要性に鑑み、一律にお祝い金をお配りする施策は見直しすべきものと判断した」とのことでした。

高齢者が増える中で、一律に祝い金を支給していたのでは予算が膨らむ。これを削減するために80歳以上を100歳以上に絞った、つまり財政支出を抑えるためです。

今日の長寿社会は、本来喜ばしいこと、ともに長生きしてよかったね、と喜ばれる社会をつくっていくのが政治の責任、社会のあり方、それを財政負担だけみるのは問題ではないでしょうか。

くわえて、市長は同僚議員の一般質問で、敬老祝金について、「現金を配布することは、費用対効果を図れないということが行政にとっては大きな問題」との認識を示されたことには驚きました。

「ご長寿、おめでとうございます」と、敬老の意をあらわす「祝金」に、何の見返りを期待されているのでしょうか。「費用対効果」は、限られた財源をより効果的に…という場合に、どれだけの効果があるのか、と検証することが必要との議論から、よく使われますが、「敬老祝金」を「費用対効果」という側面しか見られない市長の認識は非常に残念です。

「敬老の日」の始まりは、1947年9月15日に、兵庫県多可郡野間谷村（今の多可町八千代地区）で開催した「敬老の日」が始まりで、「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村づくりをしよう」という趣旨で開かれたものです。

「論語」の言葉のなかに「われ15にして学に志し、30にして立ち、40にして惑わず、50にして天命を知る、60にして耳に従う、70にして心の欲するところに従って、矩（のり）をこえず」とあります。孔子は「古い」を衰退ととらえるのではなく、逆に人間的完成ととらえていることがよくわかります。高齢者は、経験と知恵をもち、尊敬される存在だから、大切にするという、これが敬老の精神。「敬老の日」の原点はここにあり、敬老の意をあらわすための「お祝い金」が支給されているのです。お配りしていただいている民生委員のみなさんには、負担な側面はあるが、高齢者のみなさんとの大事な接点です。それを費用対効果で推し量るとはとんでもない、といわなければなりません。

敬老祝金「大幅削減」条例、共産党のみ反対

「一律の現金配布では費用対効果がはかれない」——市長答弁

12月議会では、これまで80歳以上に支給されていた「敬老祝金」を100歳以上に限定する条例改正案が日

本共産党を除く賛成多数で可決。山岡議員が「費用対効果で推し量るのは問題」と反対討論しました。

問われる、議員の議決の責任、スジをとおす一貫した対応

国に準拠して議員報酬（期末手当）を一部改正する条例案が、総務常任委員会では賛成多数で継続審査とされましたが、本会議では「継続審査」が否決。再度総務常任委員会に差し戻された結果、議案は全員賛成、本会議でも全員賛成で可決されるという理解できない対応が起こりました。

総務常任委員会では、凜風会所属の田中喜克議員から閉会中の継続審査にすべきとの動議がだされました。動議の理由は、敬老祝金で削減される2000万円の使徒がしめされないもとの、議員の報酬が上がるのどうか、というもの。賛成4、反対3で委員会では「継続審査」となりましたが、その後

開かれた予算決算常任委員会では、補正予算案に修正案も出さず賛成する一貫しない態度。動議の主旨なら敬老金条例改正こそ継続審査にすべきなのに、賛成。結局「継続審査」は、本会議で凜風会と無所属クラブのみの賛成で否決された、という経緯です。議員の責任が問われています。

甲賀広域行政組合議会

12月26日に開催され、給与改正条例、補正予算の2議案が全員賛成で可決されました。

公立甲賀病院組合議会

12月26日に開催され、給与改正、独法化に伴う条例改正など22議案が全員賛成で可決。

質疑は小西議員の6件14項目のみでした。

提言「教職員の働き方を変えたい」



教育長と議員団が懇談

日本共産党が11月に発表した提言「教職員を増やし、異常な長時間労働の是正を——学校をよりよい教育の場に——」に関して12月26日に山下教育長、井用学校教育担当次長と懇談を行いました。懇談では、市教育委員会独自の調査や取り組みなども紹介され、提言への感想などを聞かせていただきました。

日本共産党

甲賀市議員団ニュース

2018年 12月 30日 第247号



山岡 光広
甲南町森尻 16
TEL 86-2985
Fax 86-0415



小西喜代次
信楽町勅旨 456
TEL 83-0765
Fax 83-0765



岡田 重美
土山町南土山甲 78-15
TEL 66-0696
Fax 66-0696